

わたしのおばあちゃんは三年前に小脳出血でたおれ、身体障害者の手帳を持っています。歩く事も不自由、手もふるえっぱなし。おまけに物わすれも多いし、何より毎日おこりっぱなしで別人になりました。「本当のおばあちゃんはやさしいものなんだよ。頭の病気がそうさせてるんだよ。」と病院の先生は会うと言ってくれますが、わたしは「本当かな。」と思うときもあります。

おじいちゃん、お母さんがやっているのを見ているうちに車いすも上手におせるようになったし、服を着がえさせたり、トイレに連れて行ったり、オムツ交かんもチョチョイのチョイで出来るようになりました。おばあちゃんをおふろに入れる事もあります。

おばあちゃんとおふろに入るのは最初は楽しいけど、最後の方はとてもつかれてクタクタです。きげんが悪くなったら歌を歌ってごまかしたり、明日の予定を話したり、学校の話をしてします。これはけっこう役立ちます。体をあらうのはもっと大変です。少ししか立ってられないので、おしりをあらうときは急いでキレイにあらいます。おこり出すともっともっと大変な事になるのでここはスピードが必要です。

せっかくがんばって入れたのに、「一人で入った。入れてもらってない。」とおばあちゃんと言ったときには、「二度と入れるか！」と思うのですが、やっぱりいっしょに入りたくなくなってしまいます。大変なのは分かっているのに、入れてあげた事もわすれるかもしれないのに、入れたくなるんです。

「きっとよそのおばあちゃんはぎゃくなんだろうな。」

わたしはおばあちゃんをおふろに入れるけど、よそのおばあちゃんはまごをおふろに入れるんだろうな。そう思うと、「わたしってすごい」と自信がつきます。今度もがんばろうと思うのです。

毎日おばあちゃんとケンカします。お母さんはわたしが一人っ子なので、「年の取った妹が出来てよかった。」と笑います。

おじいちゃんは、「もうケンカするな。」となげいています。

わたしはおばあちゃんとこれからもケンカします。でもお世話をするのはもっと大好きです。わたしのおばあちゃんは体が不自由でおこりっぽいけどおばあちゃんしかいないからです。